

“大切な花”を咲かせよう



子どもの発達支援施設
つつじが崎学園

保育所等訪問支援通信NO. R6-3



異常なほどの気温を記録している毎日。園児さんも先生方も、元気に過ごして欲しいと思います。

さて、今回のおたよりのテーマは「保護者の受容と支援」です。各園を訪問する中で、多くの先生が悩みを抱えていると感じています。気になる子がいるけど、どのように保護者に伝えたらいいの？話しても、なかなか子どもの状況を受け入れてもらえない、保護者が受け入れた後は、どんなふうにサポートしたらいいのかな？…。保育者をはじめとする周囲の“支える体制”を整え、保護者の思いを理解したり寄り添ったりしながら、子どもの支援や成長に繋げていきたいですね。

① 「気になる特性」への気づきを促す

気になる子がいる場合、その子への早期対応の面から、保護者に気づきを促し、保護者と保育者が**意識を共有**していけるようにすることが大切です。

② どんなふうに伝える？ 「困っているのは子ども」

集団活動で子どもの様子を日常的に見ている保育者が、子どもの困り感をよく知っています。

「気になる子」の対応に困難を感じ神経を使っている保育者もいると思いますが、その“**保育者の困り事**”ばかりを保護者に伝えてしまうと、保護者は自身を否定されたように感じたり、孤独感を強めたりしてしまいます。

◀ ポイント ▶

★子どもに起きている“なぜ”を把握する為、巡回指導等で専門家から障がい名を用いて説明を受けたり、専門書等で障がい名を調べたりすることがあると思います。ですが、保護者に状況を伝える時は障がい名は用いらず、具体的にどのようなところが苦手で**本人が困っている**のかという状態を伝えるように心がけましょう。また、お子さんの困っていることに先生方がどのように対応し効果があつたのかを共有するのも、信頼関係を保ちながら次の支援に繋げる為に重要です。

★保育者からすると、子どもの気になる点の方が目につきやすいのですが、問題点ばかりでなく、これまででできるようになったことや、本人が頑張っているところ等、良いところも含め話していくと子どもと向き合おうという気持ちを持つことが出来ます。

★参観や行事などで、ありのままの姿を見てもらう機会を設けましょう。保護者を意識して普段の様子が見られない場合は、参観日以外で来園してもらい、子どもから見えないところで見学してもらいます。

★保護者に子どもの様子を伝えることは最終目的ではありません。保護者に事実を知ってもらい、子どもにとって**最良の方法を保護者と一緒に考えていく**ことが目的であることを、忘れないようにしましょう。

最後に…

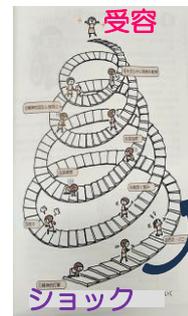
保護者を支えることが、結果的に子どもを支えることに繋がります。気軽に園に相談できるよう、普段から保育者が保護者と信頼関係を築いていくことが大切です。

③ 受容を支える

保護者が、子どもの状態を受け入れないのは当たり前

保護者はわが子に様々な願いや期待をかけます。また「もっと〇〇になって欲しい…」と欲を出すのが心情です。「ほかの子とちょっと違う」と思いつつも、子どもに対する期待を持ち続け、“個人差”と捉えて自分の不安を閉じ込めていきます。

保護者が子ども障害を受容していく過程は、螺旋階段を上っていくように進みます。“障がい”や“特徴”を知ってから、否定・怒り・罪悪感・孤独・諦め・現実の直視・新しい価値観の獲得…と、階段を行ったり来たり…。保護者からは同じところをグルグルと回っているように見えます。でも一歩ずつ受容の道を進めているのです。親としての自覚や努力が足りないというわけではありません。それだけ、子どもの状況を受容するということは、保護者にとって大変なことなのです。



子どもの状態に無理に目を向けさせようとせず、保護者の“心の揺れ”に寄り添っていきましょう。



④ “対応方法”を、保護者と一緒に考える (家庭と園との連携を強くする)

保護者は、常にサポートを受ける立場の人とは限りません。保育者や園が、保護者からの助けを必要とする機会も多いのです。園での子どもの状態を伝えながら家庭での対応を尋ね、「一緒に子育てをしよう！」「一緒に考えよう！」という姿勢を見せていくことで、大きな安心を得て、園と協力して子育てをしていこうという気持ちを持つことができます。

⑤ 子どもの発達の見通しを伝える

発達に支援が必要な子どもの保護者は、個人差や程度の違いはありますが、子どもの育てにくさを感じています。また、この子の育てにくさは永遠に続くのだろうか、悩みます。このような保護者には、今の不安を受け止めつつ、どのように成長していくのか、見通しを伝えてください。具体的な見通しを持てると、子どもの成長に安心と期待を持つことができるようになります。その子どもと似た特徴の子どもをもつ先輩保護者に相談に乗ってもらうことも有効です。不安な気持ちに共感してもらっただけでも、保護者の気持ちはかなり楽になります。その際は先輩保護者との仲介をお願いします。

参考書籍：「具体的な対応がわかる 気になる子の保護者への支援」 徳田克己 監修・水野智美 編著
「発達障害の子どもたちと保護者をサポートする本(幼児編)」 酒井幸子・中野圭子 著

～感染症の対応についてのお願い～

日頃より訪問支援へのご理解・ご協力ありがとうございます。コロナウイルスを始め、胃腸炎、手足口病など、様々な感染症が流行しています。引き続き、訪問前にはお電話をいたしますので、互いの園の健康状況を共有させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。又、懇談時間は感染対策として30分間とさせていただきます。状況によっては時間内に終了することができないこともあり、先生方にはご迷惑をおかけしております。今後も時間内で終了できるよう努めて参りますので、よろしくお願ひいたします。

児童発達支援センター つつじが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013
山梨県甲府市岩窪町6 1 4 番地
Tel 055-251-7678
Fax 055-251-7679
Mail ooshiba@tutuji.or.jp
担当：吉岡かよ 大柴知子 岩下詩歩